

# 吹田東高校 46期生 3年生進路だより No.7

～自分の弱点を把握し、強化していこう～ 2021/08/20

夏休みは、計画通りに過ごせたでしょうか。東京オリンピックでは、日頃の練習の成果を出せた選手、出せなかった選手がいましたが、それぞれが自分のゴールに向けて精一杯取り組んできたことを悔いてはいない姿は、我々に感動を与えてくれました。世間はまだコロナ禍の影響が続いており、光の見えない状態になっていますが、それでも入試は予定通り行われます。今何をすべきかを考え、自分のゴールに向かっていってほしいと思います。

## I 共通テスト

共通テスト初年度となる2021年は、706大学、専門職大学5、短期大学155の計866大学が参加し、53万5,245人が志願しました。1月16日・17日の志願者数は53万4,527人、追試験の1月30日・31日の志願者数は718人。2021年3月高等学校等卒業見込者（現役生）のうち共通テストに出願した者の割合（現役志願率）は全国平均で44.3%となりました。

前年度のセンター試験に比べ、英語はリーディング・リスニングが[100点・100点]の均等配点となり、リスニング6問中4問が「1回読み」。また、複数資料や長い説明文の読解など、思考力・読解力・判断力を試され、高速の情報処理が必要な問題が目立ちました。

また、過去の共通一次やセンター試験においても、新方式が導入された翌年は、平均点がダウンしたので、2022年は難化することが予想されます。

### 【私立大の共通テスト利用入試】

私立大の共通テスト利用入試には、共通テストの成績のみで決まる「単独型」と、共通テストと個別試験の両方が課される「併用型」があります。さらに、科目や配点比率は大学・学部学科によりさまざまです。一番のメリットは、大学入学共通テストを受けるだけで複数の大学・短期大学・学部学科に出願できることです（個別試験がある併用方式を除きます）。ほとんどの場合は一般選抜と併願できるため、負担を押さえながら合格のチャンスを増やすことができます。

近畿大学の2019年度入試の場合、同じ学力（GTZ:BI）であっても、一般方式の合格率は30%、センター方式の合格率は56%でした。近畿大学や龍谷大学など、併用方式に力を入れる大学が増加傾向にあります。併用方式は、得意教科を生かせる方式のため、少ない教科でも勝負ができます。「共通テストは絶対に受けない」と思わないで、募集要項をよく読んで、一つの受験の方法として、考えてみましょう。

## II 私立大一般

難関校から中堅校まで、「志願者減・合格者増」が目立ちました。その要因としては、①コロナ禍により、首都圏や京阪神の私立大が敬遠された。②既卒者の大幅減。③推薦型、総合型が合格者増で易化したため、一般選抜の受験者自体が減少した。④入学手続き率の読みにくさから、難関校から順次正規合格者を増やし、さらに追加・補充合格を多めに出したことから、中堅校に至るまで、玉突きで同じ措置を取らざるを得ず、倍率ダウンする大学が出た。

## 【国語の重要性】

摂・神・追・桃、阪南・大阪成蹊・大阪学院の入試では、合格点と不合格点の差が大きい教科は英語より国語のほうがでした。つまり、英語に加えて・国語が得意であれば優位に働きます。英語検定が広がり、合格パターンは多様になってきています。みなし得点の場合は2教科の勝負となります。英語も頑張してほしいのですが、国語を決しておろそかにしないでしっかりやっていきましょう。

## Ⅲ 出願までに気をつけておきたいこと

1. 一般入試を見据えて出願校を決定しよう。
2. 学校型推薦では、国語の完成度を高めよう。
3. 現在の受験勉強が自分に合っているかは、模試の結果を十分に分析すること。
4. 過去問では、時間不足か基礎力不足かを見極める。時間不足の場合は時間配分を意識し、演習問題を繰り返す。基礎力不足の場合は、単語力を増強し、参考書を総復習する。
5. 併願校の検討を行い、万が一の場合も想定しておく。第3,4志望まで考えよう。

## Ⅳ 当面の日程

- 指定校推薦 申込日 8月25日(水)、8月26日(木)は予備日
- 共通テスト 説明会への出欠票の提出締め切り 8月26日(木)  
説明会 9月2日(木) 放課後  
…この説明会に出席した人のみ願書を渡します。  
下書き担任へ提出締め切り 9月6日(月) ⇒ 返却 9月9日(木)  
振込推奨日 9月13日(月)  
志願票担任へ提出締め切り 9月22日(水)

### 【検定料】

- ・3教科以上受験…18,000円
- ・2教科以下受験…12,000円
- ・成績通知手数料…800円

- 面接練習 面接申し込み締め切り 9月3日(金)  
第1回面接指導 9月22日(水)  
第2回面接指導 9月下旬  
第3回面接指導 10月初旬

## Ⅴ 書類提出・発行依頼などについて

2学期は、共通テスト説明会の出欠票提出、指定校申し込み、調査書発行依頼、推薦書依頼など、期限があるものが押し寄せてきます。期限ぎりぎりだと、訂正があった場合に取り返しのつかないこともあります。提出物は、期限ぎりぎりではなく、余裕をもって出しましょう。



## ☆先輩からのエール☆

最終進路先: 島根大学総合理工学部地球科学科

上記以外の合格先: 近畿大学農学部環境管理学科

近畿大学生物理工学部生物工学科

自分は高校受験合格後、春休みに生物、数学をひたすらノートなどに解いていました。なぜ生物と数学かというとその2科目は分かりやすい参考書を読んでいるだけですらすら進むことができたからです。使用教材は、数学は青チャート、生物は【大森徹の最強講義生物】を使用していました。また、数学の計画として高1の間に数学ⅠAⅡBをあて、高2から1年かけて数学Ⅲを終えました。高3の1年間は内容理解があやふやな所を復習に当てました。数学Ⅲの入門教材として【坂田あきらの数Ⅲの微分積分が面白いほどわかる本】を使用していました。

高2の9月頃、進路選択で生物か物理の選択で非常に迷いました。生物はここまで円滑に進んでいて生物にしようとしたのですが、自分は数式を用いて身の回りの自然現象を表現したいという願望のほうが強かったので、生物ではなく物理を選択しました。

しかし、物理の場合使用教材の【宇宙一分かりやすい高校物理】を熟読でき、その教材についている問題ができて、【物理のエッセンス】についている問題には全く歯が立ちませんでした。そこが物理においての最大の壁でした。また、化学は膨大な量のうえに難易度もかなり高いので少し先取りが遅れて高1の冬から本格的に入門編として、【坂田あきらの化学計算が面白いほど解ける本】などを読みながら一通り理論化学を終わらせ、無機、有機に入りました。

ここで少し話がずれますが、目指していた大学は九州大、京都工繊大、兵庫県立大、京都府立大、大阪府立大、大阪市立大、信州大、新潟大など近畿圏から地方国公立大学を高1の春から目指していました。内心自分はほとんど私立を考慮していませんでした。しかし、高2の秋の全統記述模試で、京都工繊大や兵庫県立大など国公立はE判定で今までこんなに頑張ったこの判定かという敗北感を感じ、一時的に精神崩壊しました。このことから、もう二度とこのような判定をとるまいと心に誓い、高2の冬から猛勉強しました。【平日3時間、休日6~12時間】

化学の難しいところは、計算が大変だということと暗記事項は本当に膨大にあるところだと思っています。また、物理では知識は定着しているけれども、問題はまともに解けないという現象が自分は続いたので、ある程度のセンスは要ります。数学は典型的な問題の解き方を知ることだと思います。また、数学は数学ⅠⅡⅢに関してはほとんど問題暗記でなんとかなります。数学Aの場合の数、確率の分野に関してはそれが通用しなかったため、マスターできませんでした。英語は最低でも半年は勉強しないと伸びないと言われており、実際自分は高1で英単語、文法など理系科目と同じぐらい勉強していましたが、高2、高3では伸び悩み、挫折の領域に入りました。国語は英語よりも苦手な定期テストですら50点ぐらいだったのであまりやっていませんでした。しかし、現代文だけは共通テストで点を得たいという目標を立て、高3の夏からひたすらセンターの過去問を解いていました。その結果、共通テストで7割程度得点できました。

また、今年はコロナの影響もあり島根大や鹿児島大など安全志向になり地方国立を目指すことにしました。初めの模試ではA判定でしたが、直前はC、D判定だったのでもう無理かなとあきらめながらも勉強を続けました。それでも、本番は何とか第一志望のボーダーラインに届き、島根大に合格できました。

このように、自分は苦手科目を克服しつつ、私立ではなく、国立にいくぞという信念を持つなどして学校の波に飲み込まれないようにしました。まだまだ言いたいことはありますが、これぐらいにしておこうと思います。後輩へのアドバイスとしては【自分たちの信念を持ち、どうか学校の教室の雰囲気だけにはのまれないようにして、目標に向かって突き進んで下さい】です。